

平成20年度 授業改善プラン

国 語			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	漢字力、語彙力が小テストや確認テストの結果からほぼ定着していることがわかる。読む力はワークシートの活用が効果をあげている。話す・聞く力、書く力に個人差があり、対話を取り入れた授業や添削指導の必要がある。	話す・聞く力の伸長のために、作品の内容に即した題材を指定し、対話の時間を設定する。話し方や応対の仕方の支援を適宜行いながら、個々の成長を促す。書く力の伸長のためには、ワークシート内に100～200字の作文課題を設定し、添削を充実させながら個別指導を行う。	発展的な学習においては教科書作品以外の読解問題に取り組みせ、読解力の伸長を図る。補充的な学習においては短作文作りを通して漢字力、語彙力を高め、作文力へとつなげていく。
2 学 年	漢字力、語彙力の定着度が小テストや確認テストの結果からは十分とはいえない。話す・聞く力の習得には意欲的である。読む力、書く力は十分な成長がまだ見られないことから、ワークシートの作成の一層の工夫が課題である。	漢字力、語彙力の定着のため、テスト前後の反復学習を取り入れる。ワークシートの作成では思考段階を追って読解が深まるような発問の工夫をする。また、100～200字の作文課題を設定し、添削を充実させながら個別指導を行う。	発展的な学習においては教科書作品以外の読解問題に取り組みせ、読解力の伸長を図る。補充的な学習においては放課後の補充学習を計画するなどして学習時間を確保し、漢字力、語彙力、短作文力の向上を図る。
3 学 年	読む力、書く力、漢字力、語彙力ともに十分な力を身につけている。聞く力は高いが、積極的な発言は見られず、話す力を発揮できない場面が多い。総合的な国語力を高めるためのバランスのとれた指導の工夫が必要である。	基礎・基本的な国語力を踏まえて、自分の考えを表現する機会を授業内に設定する。対話を通して、自身の考えを深め、自身の表現へも還元させる。	発展的な学習においては高校入試問題等にも取り組み、読解力の一層の向上を図る。

数 学			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	ワークシートを活用する授業展開および「授業ノート」「宿題ノート」を使い分ける学習形態はしっかり定着してきた。小学校の算数の基礎はできているが、応用的な内容の理解にはやや時間がかかる。学習に対する意欲はあるので、互いに考えを出し合ったり、教え合ったりするような授業展開を通じて、学習内容を深め合うような雰囲気作りが課題である。	理解が深まった生徒や演習問題が早く終わり達成率が高かった生徒が他の生徒の支援にまわったり、互いに答え合わせをし合うような場面を設けて、コミュニケーションや意見交換を行いやすい雰囲気をつくる。	演習問題の量を多くすること、それを家庭でも取り組めるような習慣を身につけることが必要である。「宿題プリント」して配付する演習の中に、基礎的な演習ドリルと同時に発展的な内容も盛り込んでいく。
2 学 年	最低限の計算力を定着させるため、基本を何度もくり返している。そのため、導入の時間を短縮したり、応用を簡単に取り上げるにとどめたりしている。通常の3倍近い時間を費やしているが、それでも作業に時間がかかり、その割に正答率もあまり高くなっていないのが課題である。	1章「式の計算」、2章「連立方程式」では、ワークシートを活用しつつ要点を押さえ、とにかく計算をしっかりと取り組ませてきた。3章「1次関数」ではグラフを書くことおよび式を求めることに重点を置く。図形分野でも要点を絞り、簡単な証明が書けることを目指した授業を展開する。	授業時間内では応用や発展まで取り組む時間的な余裕がないので、選択授業の時間や数学検定の学習会などで深める機会を設ける。補充については、「宿題プリント」で少しずつ演習をくり返すことが効果を上げているので、今後も継続する。
3 学 年	生徒の学習に対する意識が高く、数の概念や計算の能力も全体的に高い。個人個人は話を聞くことや真剣に考えることができ、応用問題に挑戦しようとする意欲もある。3年になってから全体的に活発な場面が少なく、学級で授業を作り上げる雰囲気が乏しくなってきたことが課題である。	ワークシートによる授業形態をより高度なものにし、さらに宿題プリントを利用して学習内容の定着を図る。また、早く理解できた生徒が支援したり、入試レベルの問題をいっしょに考えるような場面を設け、みんなでいっしょに考えるような雰囲気をつくっていく。	授業中の補充問題や、宿題プリントを通じて応用・発展問題に取り組み機会を設ける。また、選択授業や放課後の学習会などにおいても、入試の過去問題や数学検定への挑戦を通じてより多くの発展的内容に取り組んでいく。

英 語			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	「聞くこと」「話すこと」を中心に授業展開を進めてきている。また、書く事への取り組みは家庭学習を中心に行っている。4技能の中で、1年生で「書くこと」をどのように身に付けさせるかが課題である。	授業の中では、英文の書き方、決まりごとをやるだけにとどめ、後は家庭学習の中で定着させる。また、計画的に家庭で行う課題を作成し、必ずやってくるように指導する。各自にiPodを渡し、家庭でリスニング学習に取り組めるよう指導する。	補充・発展については個別の課題を与えたり、昼休み、放課後などを利用して行う。また、長期休業中に補充学習を行う。
2 学 年	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能がバランスよく身につくように、授業を展開している。2年生では、「書くこと」に重点をおき、毎時間、英文日記を課題として課している。あるまとまった量の自然な英語を聞いて理解できるかが今後の課題である。	1学期から行っている、ディクテーションを継続していく。また、語彙力の定着をはかるために不規則動詞の小テストを毎授業の最初に行っていく。各自にiPodを渡し、家庭でリスニング学習に取り組めるよう指導する。	補充・発展については個別の課題を与えたり、昼休み、放課後などを利用して行う。
3 学 年	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能がバランスよく身につくように、授業展開をしてきた。中でも、「読解力」をどのようにして伸ばしていくかが今後の課題である。	長文読解の力を伸ばすために、1学期からの引き続きで、英熟語の小テストを行う。また、毎週一文、長文読解の課題を与える。そして、英検3級程度の英文の内容が7割以上理解できるように指導する。また、リスニング力の向上を目指し各自にiPodを与え、自分のペースで学習に取り組めるように指導する。	問題集を用いて、1年生からの振り返りを各自のペースで行っている。補充・発展については個別の課題を与えたり、昼休み、放課後などを利用して行う。

社会			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	単語で答えるような発問は、全員が意欲的に発言することができるが、考えていることを文章で表わすことについては不十分である。資料を活用したのち、考察する力を育成する指導を充実させる。地理的分野の理解に比べ、歴史的分野の理解は、生徒によってばらつきがあるので、知識を定着させる指導に課題がある。	机間指導を充実させることで、地図や年表、統計資料などを正確に読み取れるように留意する。文章を記述する機会を作り、読み取ったことから文章で表現する力を育成していく。歴史的分野は、時代の流れを重視し、ポイントが分かりやすい説明を工夫することで、歴史が苦手な生徒であっても知識が身につけやすい授業を展開する。	地理的分野の都道府県名、歴史的分野の時代順については、全員がしっかり理解しなければならない内容と位置づけ、徹底して指導をする。必要に応じて、確認するためのプリントを配布したり、基礎学習の時間などを活用して知識の定着を図っていく。社会科学習、特に、歴史的分野の学習に関心を寄せている生徒がいるので、自発的な調査などをやるようにすすめていく。
2 学 年	話をしているも反応がなかったり、わからないことがあると投げ出してしまったりする場面が多くみられる。集中して学習に取り組める環境づくりが課題である。地理的分野に比べ、歴史的分野の知識が、定着していない生徒が多い。地理的分野、歴史的分野ともに授業中に達成できなかった課題も、翌日にはできなくなることもある。繰り返し学習による知識の定着が課題である。	地理的分野については、要点をしぼって授業を展開していく。特に、資料活用場面では、この資料から読み取れることを考察することに時間を使い、学級の生徒全員が理解できるように工夫する。歴史的分野については、前時の復習をしっかりと行い、歴史の流れを確認してから本時の学習に入るよう、工夫する。歴史地図などを活用し、きちんと読み取れていることを確認し、資料活用能力も育成する。	「社会の自主学習」(ワークブック)を活用し、基礎の定着をはかるようにする。「社会の自主学習」専用のノートをつくらせ、何度でも学習が可能なようにする。ノートを詳しく採点することにより、生徒の誤りを早く見つけ、知識を修正できるようにする。単元テストで合格点に満たなかった生徒については、再度「社会の自主学習」の課題を出し、復習をさせるようにする。
3 学 年	全体的に単純な社会的事象に対する考察の力は比較的高く、考えたことをしっかりと述べるができるが、複雑な事象に対する考察が困難であったり、資料が正確に読み取れなかったりする生徒もいる。さらに考察力を高めることが課題である。知識・理解については、学習成果に個人差が若干見られる。個別指導などで一人一人をしっかりと見ることが必要である。	複雑な社会的事象に対する考察力を高めるために、小さな段階を設けて、少しずつ学級全体で考察し、考察のしかたを学ばせていく。机間指導を充実し、資料の見方を身につけさせることで的確な考察ができるように留意する。「作業プリント」(ワークシート)を活用し、個人の弱点を把握し、早めにその弱点が克服できるような指導助言をしながらか学習成果の向上を図る。	都立高校入試に臨むことを視野にいれ、地理的分野、歴史的分野の復習を取り入れる。授業のはじめ5分間を使ってテストを行い、苦手分野を意識させ、復習に役立たせる。復習プリントを作成し、家庭学習で活用させる。時事的な話題を取り入れ、公民的分野の学習が現代社会と関連が深いことを意識させ、社会的事象に関心を寄せられるように工夫する。

理科			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	生徒の興味・関心が高く、それを維持させるように授業ごとの目標を明確にして授業を実践してきた。授業の様子や単元テストの結果を見る限り、今後も今までの指導方法を継続していく。また、自分の考えを発表する表現力の伸長を図りたい。	今後もわかる授業を心がけ、生徒の興味・関心を維持できるようにしていく。また、授業内で発表する機会や話し合いの場を設定し、学び合いや表現力の向上を図る授業を展開する。	日頃の単元テスト後に、定着が低い部分について補充と再テストを実施していく。また、発展的な学習内容を取り入れてさらに意欲の向上を図る。
2 学 年	単元テストの結果をみると、少しずつではあるが向上がみられた。基礎的事項を定着させるために、個別指導の時間を取りすぎたため、進度が少し遅れた。また、自分の考えを発表することが苦手であり、表現力の伸長も課題である。	少人数を生かした話し合い(学び合い)を行うことで、互いに学習し合い、個別指導の時間を短縮しつつ、既習事項の定着や表現力の向上を図る授業を展開する。	補充指導が中心となるが、毎時間の「基礎チェックシート」や長期休業中の課題を工夫して、既習事項の定着をより一層の向上を図る。
3 学 年	生徒に興味・関心の向上や基礎的事項の定着がみられるようになってきた。しかし、科学的な思考を伸長させる指導が必要である。	自ら学習しようとする習慣ができていて、実験や観察結果からの考察の部分で個別指導を展開する。	発展的な指導が中心となるが、発展的な学習内容を取り入れたら、長期休業中の課題を工夫して、既習事項を関連づけて自ら考えを導き出す力の向上を図る。

音楽			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学 年	表現の楽しさを感じられる授業を心掛けたことで、特に楽器の演奏について興味を持ち始めた。演奏するときに遠慮がちな部分もあるので演奏する力や自信をつけることが必要である。	和楽器などを含めて楽器にふれる機会を増やす。個人指導の時間を確保し、歌唱や楽器の奏法の基礎基本を身につけられるようにし、その中で自信を持って表現していく力につなげていく。全体で合唱や合奏をする時間を引き続き作っていく。	個別指導の実施により、個別の補充内容や発展内容を把握して指導する。
2 学 年	表現の楽しさを感じられる授業に心掛けた。それぞれが自分の好きな楽器の演奏に生き生きと取り組んでいた。さらに音楽的な知識や理解を深めることで、演奏する力や表現する力を伸ばしていきたい。	鑑賞や楽典の内容を重点的に実施し、より楽曲についての学習を深め、表現活動につなげていく。より多くの楽器にふれ、個別指導の時間を確保することで奏法などの基礎基本を身につけられるようにする。	個別指導の実施により、個別の補充内容や発展内容を把握して指導する。
3 学 年	表現の楽しさを感じられる授業に心掛けた。それぞれ大変熱心に取り組んでいたが、さらに音楽を楽しむ気持ちが演奏に生かされるようにしていきたい。希望の楽器の奏法の技術向上を目指していきたい。	個別指導の時間を確保することで、奏法などの基礎基本を身につけられるようにする。また、それぞれの段階にあった課題を設定し、適宜提示していくことによって技術が向上するよう指導する。様々な音楽にふれ、卒業後も音楽に親しんでいけるような心情を育てる。	個別指導の実施により、個別の補充内容や発展内容を把握して指導する。

美術			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学年	授業に集中して取り組んでいるが、発想の力が弱いと感じる。発想や構想を練る際の刺激になるものを十分に提供する必要がある。	今年度の作品のみならず旧年度の作品や他学年の作品、または他校生の作品や世間で公開されている作品を鑑賞させて、発想の動機付けを豊かにする。表現に自信が持てるよう、基礎的な技術をしっかりと行う。	授業前、後にワークシートを活用し、自他の作品を鑑賞し、自己を客観視し、制作に向かっての展望を持たせる。表現を楽しめるような題材を多く設定する。
2 学年	授業の雰囲気は良いが、自分の表現に自信を持っていない部分があると感じる。自分の作品、他人の作品ともにじっくり鑑賞し、互いの作品について率直に批評できる時間が不足している。	自他の作品を客観的に鑑賞する機会を増やし、制作する際に今後の展望が開けるように指導助言する。互いの作品を批評しあえるよう時間を設けて、良い所を認め合い、自信につなげていきたい。	授業前、後にワークシートを活用し、自他の作品を鑑賞し、自己を客観視し、制作に向かっての展望を持たせる。進度が著しく遅い生徒には個別指導で対応する。
3 学年	授業は良い雰囲気でも、集中して取り組んでいる。個々の能力は高いので、発想や構想がより発展するように様々な表現方法や多くの見本作品を示していきたい。	中学校の最後に思い出になる物を制作する、という気持ちを持って、集中して作業に取り組ませたい。個人作業であるが、全員で意識を高めていけるように、お互いの作品を鑑賞する時間を大切にす。	授業前、後にワークシートを活用し、自他の作品を鑑賞し、自己を客観視し、制作に向かっての展望を持たせる。見本作品を示し、発想の動機付けを豊かにする。

保健体育			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学年	運動技能習得へのモチベーションが高く、また、3人による競争意識が芽生え、切磋琢磨の中で技能・体力ともに着実に伸びてきている。能力差が明らかに見られるようになり、個に応じた学習指導のあり様が課題である。	学習カード(自己評価表)を用いるなど、一人一人の能力・技能等に応じた適切な目標・課題設定が行えるように工夫し、その達成・課題解決に向けた生徒の主体的な取組ができるようにする。	基礎技能については、概ね身につけてきているので、個に応じたより高度な運動技能の教示を心掛ける。
2 学年	運動技能習得へのモチベーションは高いが、個々の能力差が大きく、また、他学年との比較においても若干劣っている部分が見られ、そうしたことも要因の一つと考えられるが、集中力に欠ける場面が少なからず見られる。	学習カード(自己評価表)を用いるなど、一人一人の能力・技能等に応じた適切な目標・課題設定が行えるように工夫し、その達成・課題解決に向けた生徒の主体的な取組ができるようにする。	基礎技能、及び、基礎知識の定着を図るため、反復練習や繰り返しの発問を心掛ける。
3 学年	全般的には体力・運動能力が高く、運動技能にも優れている。意欲的な取組という面においては、男女の温度差が大きく、競争意識の高い男子に照準を合わせると、女子が引いてしまう場面が見られる。	学習カード(自己評価表)を用いるなど、一人一人の能力・技能等に応じた適切な目標・課題設定が行えるように工夫し、その達成・課題解決に向けた生徒の主体的な取組ができるようにする。	基礎技能については、概ね身につけてきているので、個に応じたより高度な運動技能の教示を心掛ける。また、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら課題の解決を図る。そうした問題解決学習に取り組んでいけるように留意する。

技術			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学年	授業への取り組みは良い。自分が納得できる作品を作ろうとする意欲は感じられるが、ものづくりに必要な材料の知識や作図については個人差がみられ個に応じた指導が課題である。	知識については、その時間内は覚えているが、時間が過ぎると忘れてしまうこともあるので、作業中の発問などで補い工夫する。作品については計画表に沿って作業ができるよう技能・能力に応じた課題設定を行い達成感ももてるようにし、生徒の主体的な取組を促す。	作図ができない生徒については個人指導や模型を用いて個別指導をはかる。図形の表現法としては、第三角法の作図も取り入れる。作品の加工法や接合法についても多くの例示を心掛ける。
2 学年	授業の雰囲気は明るく発言も多く、意欲的に取り組んでいるが、持続しないこともある。また知識を作業に結びつけたりすることが困難であり、自分の作品に自信がもてない場面がみられた。製作への取り組みは良いので興味・関心ももてる作品作りが課題である。	調べ学習のまとめ方については浅く、比較検討ができていないので例示し、細かく、支援・助言していく。作品製作については、生徒の負担にならず、達成感のある題材を選び、生徒が主体的に取り組めるようにする。	作業計画表に沿って、生徒が主体的に作業できるよう促す。また製作では個人差もあり遅れる生徒については個別指導で対応する。作業活動を通して問題解決ができるよう心掛ける。
3 学年	意欲的に学習し、知識の定着はよい。授業始めに行っているタイピング練習では速さだけでなく、入力法の確認にもなり、成果がみられたので今後も継続する。学習したことを、即作品に結びつけることが困難であったので作業を工夫したり、自ら発想したりするには、多くの作品例を示す必要がある。	多くの作品例を示すために、視聴覚教材を活用したり、お互いの作品について工夫したところなどを発表し合う授業を展開する。	技能面で、より完成度の高い作品ができるよう、事前に構想を練り、計画的な作業を指導する。

家庭			
学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
1 学年	学習意欲が高く、授業に集中して取り組んでいる。また、製作実習においても自分の納得できる作品を作ることができる。しかし、考えを深めていく時間を多くとり、互いの意見を積極的に交換していく時間が必要である。	自分自身の意見を積極的に述べ、互いの考えを分かち合い、知識を深めることができるように考えさせる工夫をしていく。一人一人の作業に対する意欲は高いので、一層興味関心をもつことが出来るように個々の力量を見極めて応用にも取り組ませる。	個人の進度に応じて、個別指導を実施する。進度が著しく遅い生徒に関しては放課後等を利用して補充指導を行う。
2 学年	授業の雰囲気は良く、一人一人の意欲は高い。また、作業を進んで行うことができるが、細かな作業が苦手な集中力が続かないことがあり、集中力を持続させることが課題である。	集中力を持続させるために1時間の授業の中で行う作業の流れを的確に説明し指示していく。実習時にはポイントを絞って取り組ませる。また、実習の進度に個人差が見られるので生徒同士が学び合う場面を設定する。	個人の進度に応じて、個別指導を実施する。進度が著しく遅い生徒に関しては放課後等を利用して補充指導を行う。
3 学年	学習したことの定着はしっかりとっている。授業内容が自分の生活の中に関連づけて考えることができるよう、具体例を挙げながら今後も指導していく。	指示した作業は難なくできるので、より一層、自分自身の意見・考えをより深めさせることができるような工夫をしていく。	個人の進度に応じて、個別指導を実施する。進度が著しく遅い生徒に関しては放課後等を利用して補充指導を行う。